

# 調査概要

## 【調査概要①】

子どものコミュニケーションについての実態調査(家庭用)

回答期限: 2024年05月30日(木)~2024年06月14日(金)

回答対象: 子どもを育てている保護者

回答数: 130件(有効回答数115件 ※)

実施: NPO法人JAMネットワーク

## 【調査内容】

### ■第1部: あなたのお子さま全般について

- ・子どものコミュニケーション力について課題があるかどのような課題か
- ・子ども達が使うネガティブなことば 等

### ■第2部: 親のコミュニケーションについて

- ・子どもとの会話について悩みがあるか、どのような悩みか
- ・子どもに関する悩みを抱えている時に相談できる人がいるか 等

※3歳未満と19歳以上のお子様データを除外

## 【調査概要②】

全国の児童養護施設の子どものコミュニケーションについての実態調査

回答期限: 2024年06月04日(火)~2024年06月17日(月)

回答対象: 全国の養護施設(約600)の職員の皆さま

回答数: 216件

実施: NPO法人JAMネットワーク

## 【調査内容】

### ■第1部: あなたの担当するお子さん全般について

- ・子どものコミュニケーション力について課題があるかどのような課題か
- ・子ども達が使うネガティブなことば
- ・コミュニケーション力の不足が、退所後の自立に影響を与えていると思うか 等

### ■第2部: 職員のコミュニケーションについて

- ・子どもとの会話について悩みがあるか、どのような悩みか
- ・子どもに関する悩みを抱えている時に相談できる人がいるか 等

### ■第3部: 一緒に働く同僚や上司、部下に対してコミュニケーションについて

- ・同僚や上司、部下に対してコミュニケーションの課題を感じることはあるか
- ・同僚や上司、部下の子供への対応で課題に感じている事はあるか
- ・職員同士のコミュニケーションの内容が不十分な事が、離職の原因の一つになると思うか

※なお、本調査の実施にあたっては、笑顔咲く未来創造隊(グロービス経営大学院公認クラブ「グロービス・ソーシャルアクションクラブ」)プロボノチーム)

小林 由華、辻内 孝昌、安田 護、脇山 春香によるご協力をいただきました。

# アンケート結果サマリ

## <アンケート結果サマリ>(有効回答数:一般家庭保護者115、養護施設職員216)

「子どものコミュニケーション力に課題があるか」について、一般家庭の場合は51%なのに対して養護施設の場合は約92%が課題があると感じている。家庭場合はとてもある/ある/どちらかといえばあるという回答はすべての年代を通して50%を下回っているのに対して、養護施設ではどの年代もずっと当て割合が高く年代に関係なく課題がある状況である。【P6,7参照】

「本人に言いたいことがあるのに、自分の意見が伝えられない、言語化できない」について、一般家庭の子どもは28%に対して養護施設の子どもの約94%に課題がある。家庭の場合は中高生の思春期(65%※)の頃にピークが見られる一方、養護施設の子どもの年代問わず高い割合(67%~100%※)で発言力に課題があり続ける。【P8,9参照】

「人の話を最後まで聞けない。さえぎったり、途中から他気がいってしまう様子が見られる」について、一般家庭の子どもは40%に対して養護施設の子どもの約82%に課題ある。家庭の場合は就学前(50%※)の子どもに課題が見られ、18歳になると0%となるが、養護施設の子どもの年代問わず高い割合(67%~86%※)で聞く力に課題があり続ける。【P12,13参照】

「聞く能力に若干問題があり、具体例を出して丁寧に説明しないと話が理解できない」について、一般家庭の子どもは25%に対して養護施設の子どもの80%に課題ある。家庭の場合は小学校低学年・高学年と18歳以上に当てはまらない傾向があり全体的にも当てはまらない傾向(56%)があるが、養護施設の子どもの年代問わず高い割合(67%~100%※)で理解力に課題があり続ける。【P16,17参照】

「暴言やネガティブな言葉を吐く」について、一般家庭の子どもは28%に対して養護施設の子どもの82%に課題ある。家庭の場合は、小学校高学年~中学生にかけて思春期の頃に当てはまる割合が増えていく(中学生41%※)が18歳になるとおさまる。養護施設の子どもの、年代問わず高い割合(67%~100%※)で使う言葉に課題があり続ける。自由記述で見えてきた具体的な言葉として、養護施設では「殺す、ぶっ殺す」「死ぬ、死ねる」の記載が合計85回見られる。【P22,23参照】

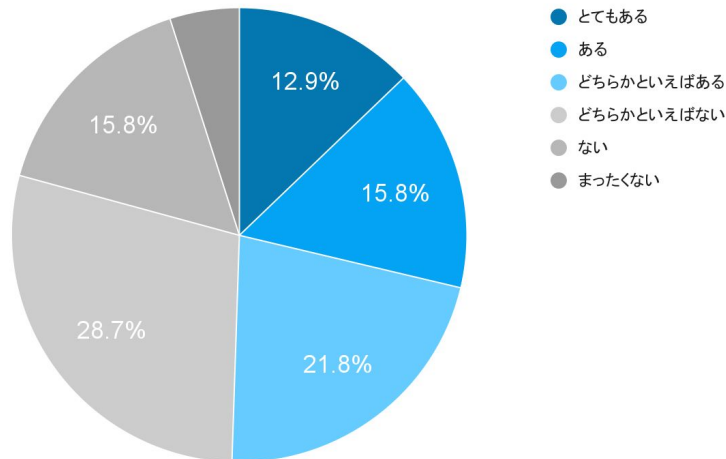
※家庭の場合「あてはまる」と回答した割合 施設の場合「半数以上当てはまる」と「当てはまる」と回答した割合を足した割合。

・養護施設職員への「コミュニケーション力の不足が、退所後の自立に影響を与えていると思いますか？」の回答について、約90%が思う、とてもそう思うと回答している。自由記述から「話し合えない」「誤解を招く」が「人間関係」「社会適応」問題に繋がりが、「孤立」「抱え込む」状態になり、「生活に支障をきたす」「困難を抱える」結果となることがうかがえる。養護施設にいる間に子どもたちのコミュニケーション力の改善が必要と考えられる。【P26参照】

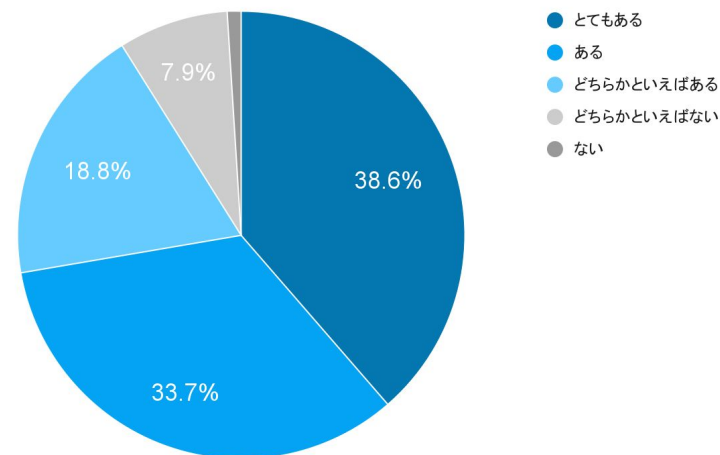
# 子どもに関するアンケート 結果

# 子どものコミュニケーション力について課題はありますか？

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	<p>家庭の場合は、51%*が課題があると回答しているのに対して、施設の場合は約92%*が課題があると感じている。</p> <p>*とともある、ある、どちらかといえばあるの合計値</p>
自由記述欄から見てきたこと	自由記述なし

# 子どものコミュニケーション力について課題はありますか？

## 一般向けアンケート

	とてもある	ある	どちらかといえばある	どちらかといえ ばない	ない	まったくない
就学前	4%	7%	25%	36%	14%	14%
小学校低学年	16%	12%	28%	28%	12%	4%
小学校高学年	9%	28%	28%	25%	6%	3%
中高生	24%	21%	14%	28%	14%	0%
18歳以上	7%	0%	7%	29%	50%	7%
全体	13%	16%	22%	29%	16%	5%

※30%を超えている箇所を黄色、50%以上を超えている箇所を赤で色付け

## 施設向けアンケート

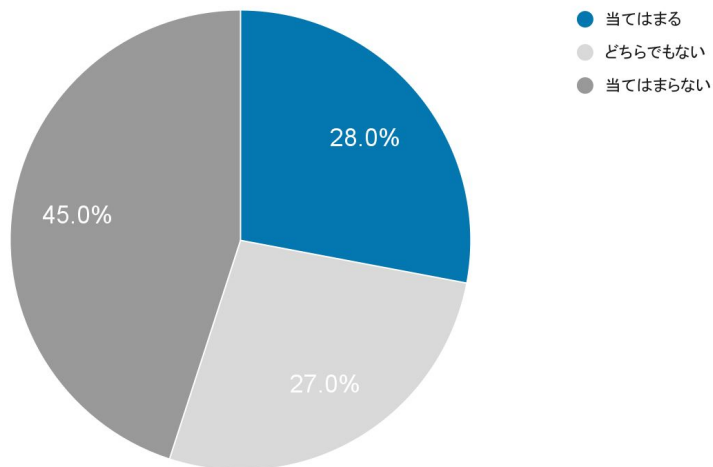
	とてもある	ある	どちらかといえ ばある	どちらかといえ ばない	ない	まったくない
就学前	25%	75%	0%	0%	0%	0%
就学前, 小学生	33%	11%	33%	22%	0%	0%
就学前, 小学生, 中高生	35%	44%	15%	5%	0%	0%
小学生	0%	67%	0%	17%	17%	0%
小学生, 中高生	64%	0%	29%	7%	0%	0%
中高生	22%	52%	15%	11%	0%	0%
全体	39%	34%	19%	8%	1%	0%

比較から見えてきた差分について

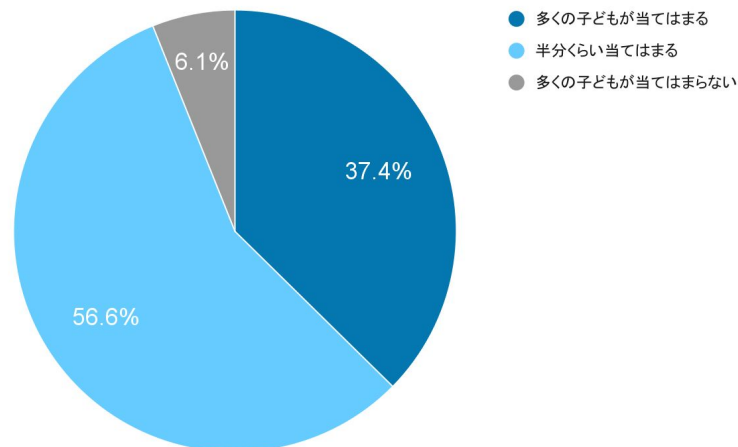
家庭では、とてもある/ある/どちらかといえばある、という回答はすべての年代を通して、50%を下回っているのに対し、施設ではどの年代も30%を超えており、年代によっては50%も超えている。

# 本人に言いたいことがあるのに、自分の意見が伝えられない、言語化できない

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	家庭の場合は28%が当てはまるに回答しているのに対して、施設の方は、94%*が当てはまると回答しており、高い傾向にある。 *多くの子どもが当てはまる+半分くらい当てはまるの合計値
自由記述欄から見てきたこと	家庭では「黙り込む」「恥ずかしい」など子供らしさが表れているが、施設では「暴力」「暴言」という攻撃的ワードが入っている。



# 本人に言いたいことがあるのに、自分の意見が伝えられない、言語化できない

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	20%	20%	60%
小学校低学年	29%	36%	36%
小学校高学年	33%	33%	33%
中高生	18%	18%	65%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	28%	27%	45%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

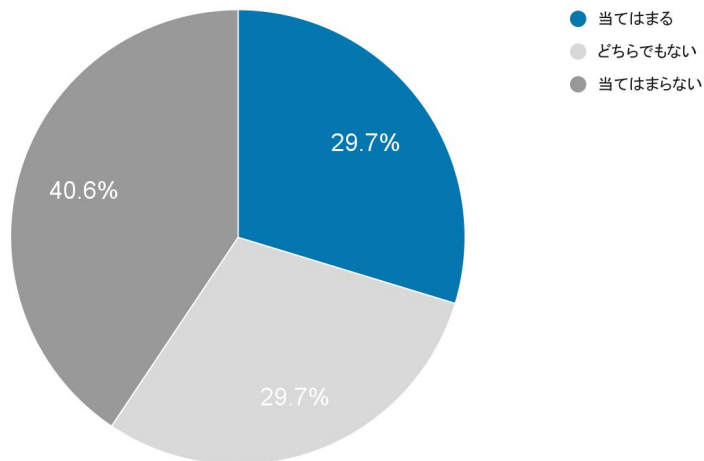
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	33%	33%	33%	67%
就学前, 小学生	0%	83%	17%	100%
就学前, 小学生, 中高生	4%	53%	43%	96%
小学生	0%	75%	25%	100%
小学生, 中高生	9%	58%	32%	91%
中高生	5%	53%	42%	95%
全体	6%	56%	37%	94%

比較から見てきた差分について

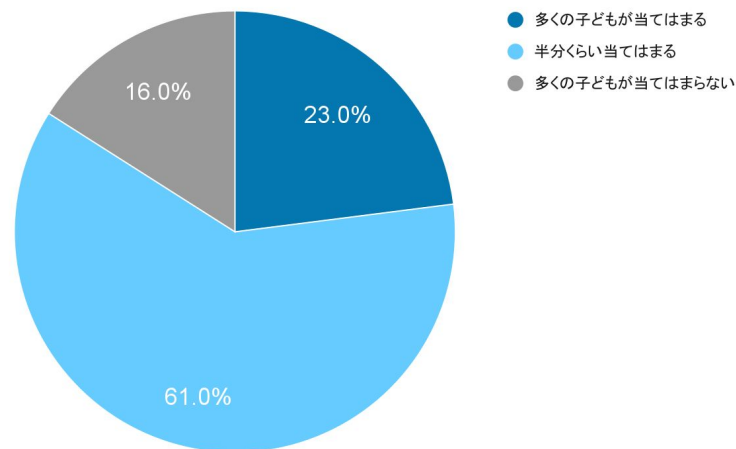
家庭では、中高生の思春期に高くなる(65%)のに対し、施設ではどの年代もずっと高く(67%~100%)変化が見られない。

# 本人にとって大切な場面で、自分の意見がでない

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと

家庭の場合は、当てはまるが、約30%なのに対して、施設の方は、84%\*と高い傾向にある。

\*多くの子どもが当てはまる+半分くらい当てはまるの合計値

自由記述欄から見てきたこと

家庭では、「怖気」「悔し泣き」「虚しい」うまく話したいのに話せない思いを感じるのに対し、施設では「投げやり」「諦める」「面倒くさい」など自分の意見を話したいという意欲が低いことが、うかがえる。

# 本人にとって大切な場面で、自分の意見がでない

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	50%	40%	10%
小学校低学年	43%	29%	29%
小学校高学年	48%	33%	19%
中高生	18%	24%	59%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	41%	30%	30%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

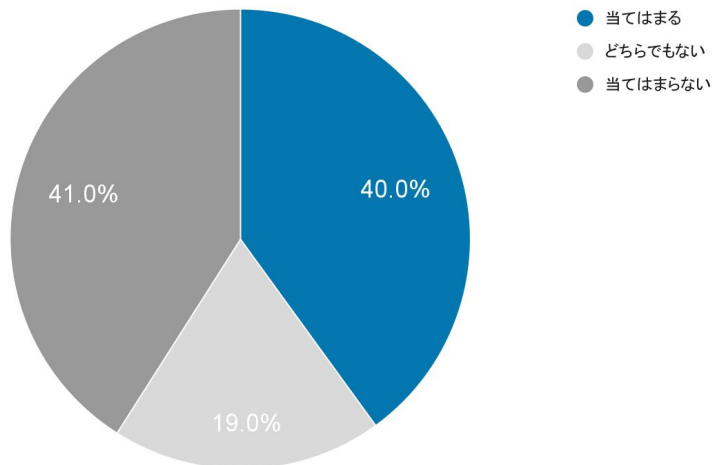
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	33%	33%	33%	67%
就学前, 小学生	17%	67%	17%	83%
就学前, 小学生, 中高生	11%	68%	22%	89%
小学生	0%	75%	25%	100%
小学生, 中高生	26%	51%	23%	74%
中高生	5%	68%	26%	95%
全体	16%	61%	23%	84%

比較から見てきた差分について

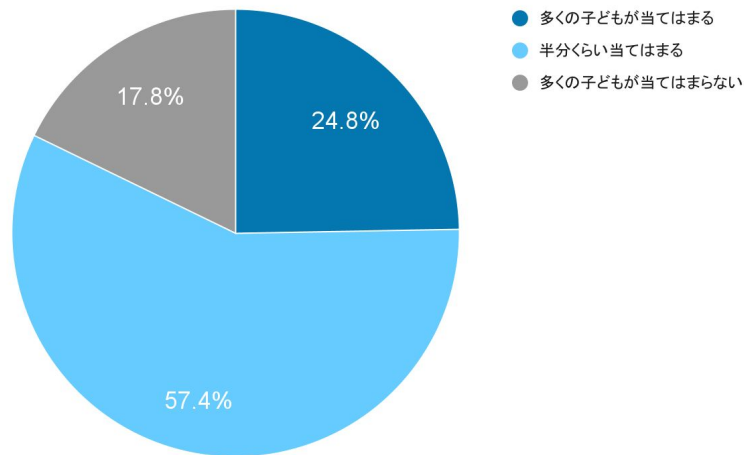
家庭では、中高生には当てはまる傾向があり、就学前 (50%)と18歳以上 (100%)には当てはまらない傾向があるのに対し、施設ではどの年代も当てはまり (67~100%)、年代による大きな変化が見られない。

# 人の話を最後まで聞けない。さえぎったり、途中から他に気がいってしまう様子が見られる

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	家庭の場合は、当てはまるが、40%なのに対して、施設の方は、約82%*と高い傾向にある。 *多くの子どもが当てはまる+半分くらい当てはまるの合計値
自由記述欄から見てきたこと	施設では「集中力が続かない」「気が散りやすい」などのワードの特徴が見られる。

# 人の話を最後まで聞けない。さえぎったり、途中から他に気がいってしまう様子が見られる

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	30%	20%	50%
小学校低学年	38%	23%	38%
小学校高学年	43%	10%	48%
中高生	41%	29%	29%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	41%	19%	40%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

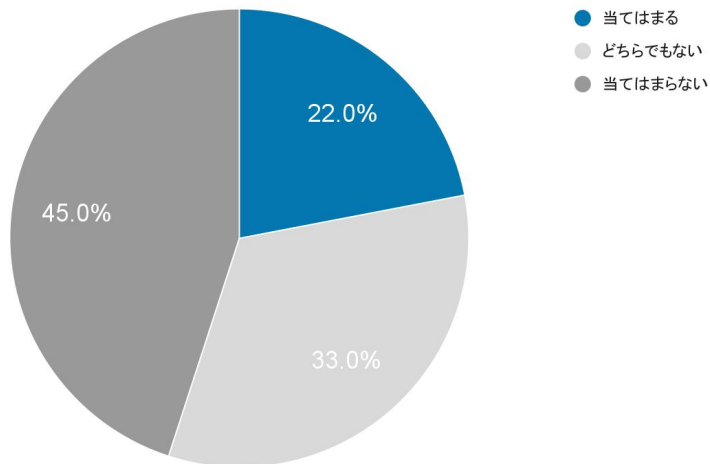
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	33%	0%	67%	67%
就学前, 小学生	17%	17%	67%	83%
就学前, 小学生, 中高生	18%	61%	22%	82%
小学生	25%	25%	50%	75%
小学生, 中高生	14%	63%	23%	86%
中高生	26%	58%	16%	74%
全体	18%	58%	25%	82%

比較から見てきた差分について

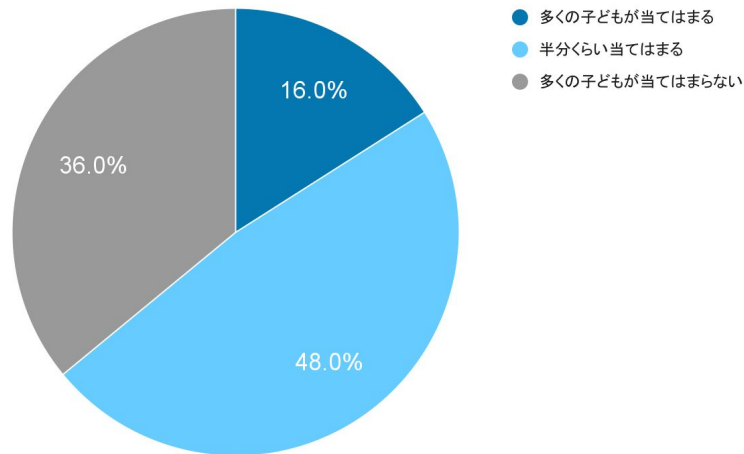
家庭では就学前には50%が当てはまる傾向があり、18歳以上には当てはまらない傾向(100%)があるのに対し、施設ではどの年代も当てはまり(67%~86%)、年代による大きな変化が見られない。

# 話があちこちに飛び、まとめて伝えることができない

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと

家庭の場合は、当てはまるが、22%なのに対して、施設の方は、64%\*と半数以上が当てはまると答えている。

\*多くの子どもが当てはまる＋半分くらい当てはまるの合計値

自由記述欄から見てきたこと

施設では「気が散りやすい」という言葉が頻繁に見られる。

# 話があちこちに飛び、まとめて伝えることができない

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	40%	30%	30%
小学校低学年	50%	36%	14%
小学校高学年	48%	24%	29%
中高生	35%	47%	18%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	45%	33%	22%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

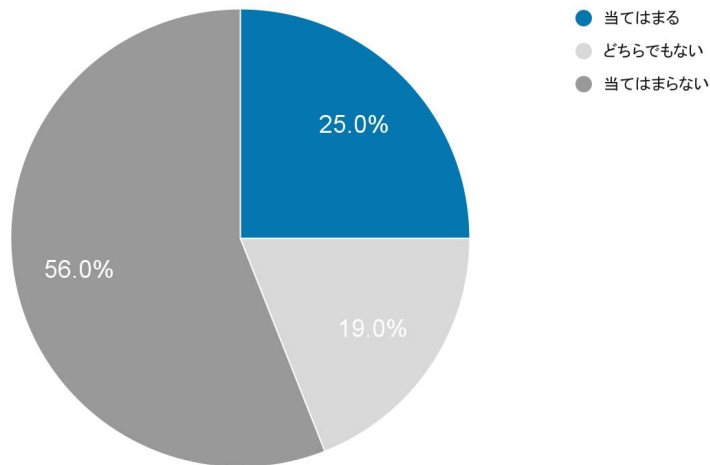
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	33%	67%	0%	67%
就学前, 小学生	17%	50%	33%	83%
就学前, 小学生, 中高生	36%	53%	11%	64%
小学生	0%	50%	50%	100%
小学生, 中高生	38%	43%	18%	62%
中高生	42%	42%	16%	58%
全体	36%	48%	16%	64%

比較から見えてきた差分について

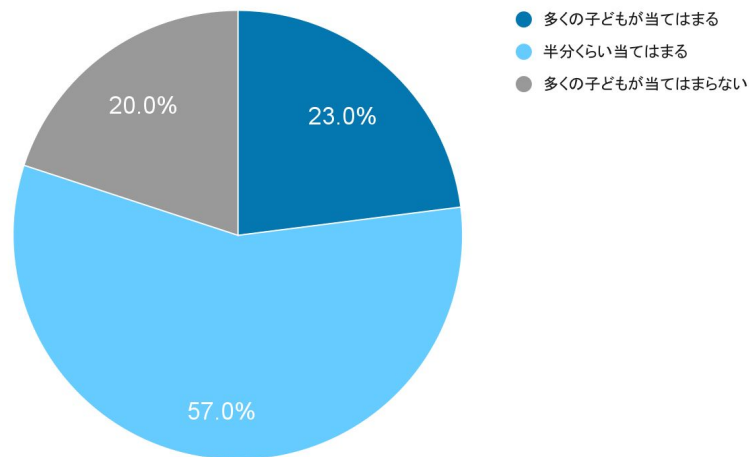
家庭では、小学校の低学年(50%)と18歳以上(100%)に当てはまらない傾向があるのに対し、施設ではどの年代も当てはまり(58%~100%)、年代による大きな変化が見られない。

# 聞く能力に若干問題があり、具体例を出して丁寧に説明しないと話が理解できない

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	家庭の場合は、当てはまるが、25%なのに対して、施設の方は、80%*と高い傾向にある。 *多くの子どもが当てはまる+半分くらい当てはまるの合計値
自由記述欄から見てきたこと	施設では「具体例」「かみ砕く」「乏しい」など理解力の低さがうかがえる単語が多く見られる。



聞く能力に若干問題があり、具体例を出して丁寧に説明しないと話が理解できない

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	40%	30%	30%
小学校低学年	64%	7%	29%
小学校高学年	62%	19%	19%
中高生	47%	24%	29%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	56%	19%	25%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

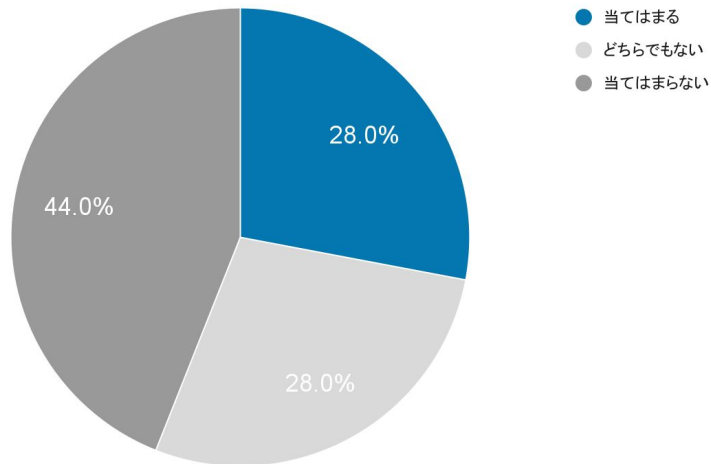
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	0%	100%	0%	100%
就学前, 小学生	33%	33%	33%	67%
就学前, 小学生, 中高生	19%	55%	26%	81%
小学生	0%	75%	25%	100%
小学生, 中高生	22%	58%	20%	78%
中高生	21%	58%	21%	79%
全体	20%	57%	23%	80%

比較から見えてきた差分について

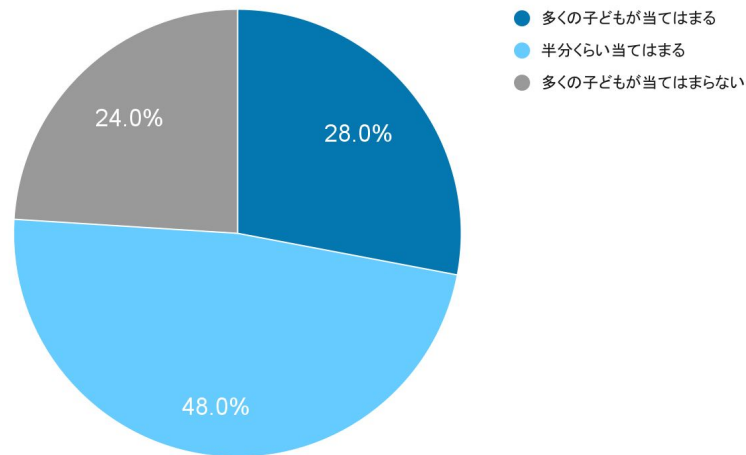
家庭は小学校低学年・高学年と18歳以上に当てはまらない傾向があり全体的にも当てはまらない傾向が高い(56%)のに対し、施設ではどの年代も当てはまり(67%~100%)、年代による大きな変化が見られない。

# 語彙が少なく自分が伝えたいことをうまく伝えられない

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	家庭の場合は、当てはまるが、28%なのに対して、施設の方は、76%*と高い傾向にある。 *多くの子どもが当てはまる+半分くらい当てはまるの合計値
自由記述欄から見てきたこと	両方ともに「少ない」「難しい(家庭)」「伝えにくい(施設)」「乏しい(施設)」などうまく伝えられない状況がうかがえる。

# 語彙が少なく自分が伝えたいことをうまく伝えられない

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	30%	20%	50%
小学校低学年	50%	29%	21%
小学校高学年	57%	29%	14%
中高生	24%	35%	41%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	44%	28%	28%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

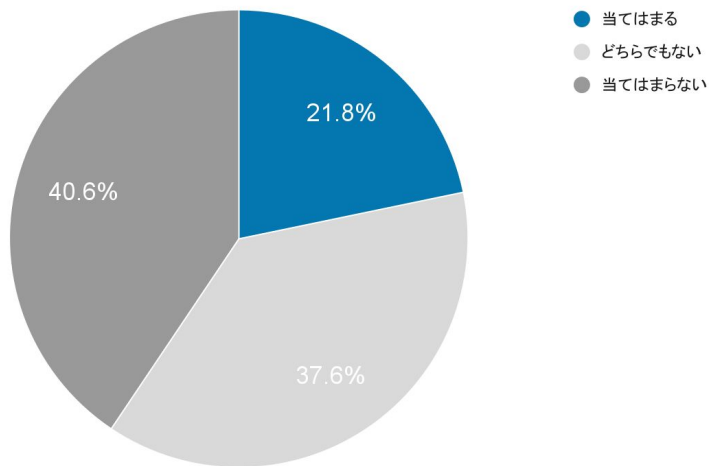
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	67%	33%	0%	33%
就学前, 小学生	0%	50%	50%	100%
就学前, 小学生, 中高生	24%	47%	28%	76%
小学生	0%	50%	50%	100%
小学生, 中高生	23%	52%	25%	77%
中高生	32%	37%	32%	68%
全体	24%	48%	28%	76%

比較から見てきた差分について

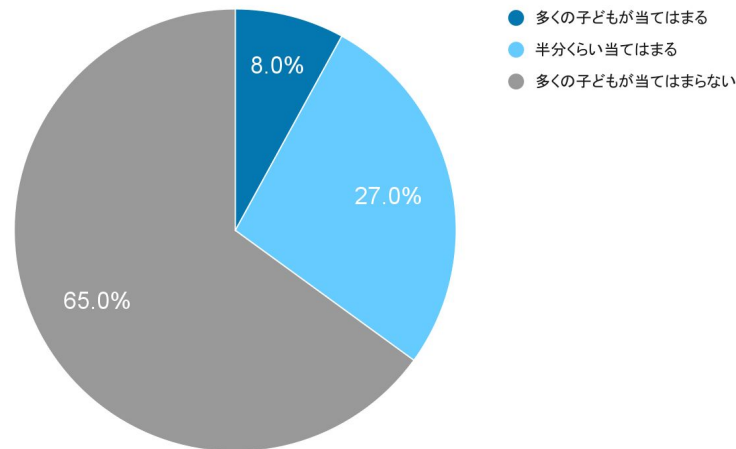
家庭では就学前には当てはまる(50%)傾向があり、小学校低学年・高学年50~57%)、18歳以上(100%)には当てはまらない傾向があるが、施設ではそもそも言葉がつかない就学前を除き、どの年代も当てはまり(68%~100%)、年代による大きな変化が見られない。

# 気を許した人以外とほとんど話していない。黙ってしまう

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと

家庭と施設で顕著な差は見られない。

自由記述欄から見てきたこと

施設では「拒否される不安」「否定されるのではという不安」など、ネガティブなワードが多く見られる。

# 気を許した人以外とほとんど話していない。黙ってしまう

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	50%	50%	0%
小学校低学年	36%	36%	29%
小学校高学年	52%	33%	14%
中高生	18%	41%	41%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	41%	38%	22%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

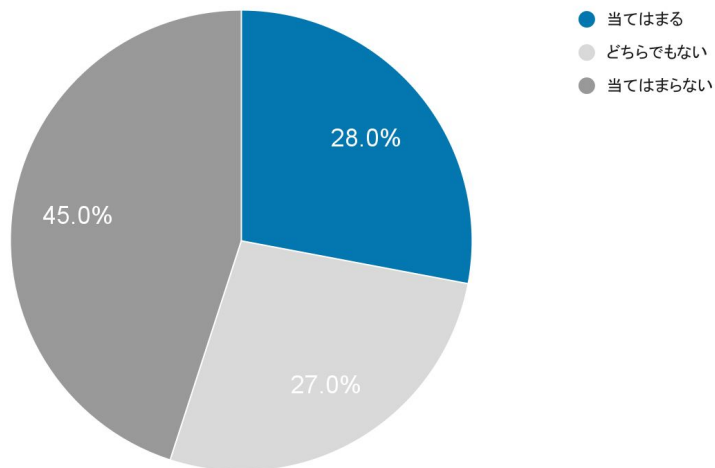
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	100%	0%	0%	0%
就学前, 小学生	83%	17%	0%	17%
就学前, 小学生, 中高生	66%	27%	7%	34%
小学生	25%	75%	0%	75%
小学生, 中高生	69%	22%	9%	31%
中高生	47%	42%	11%	53%
全体	65%	27%	8%	35%

比較から見てきた差分について

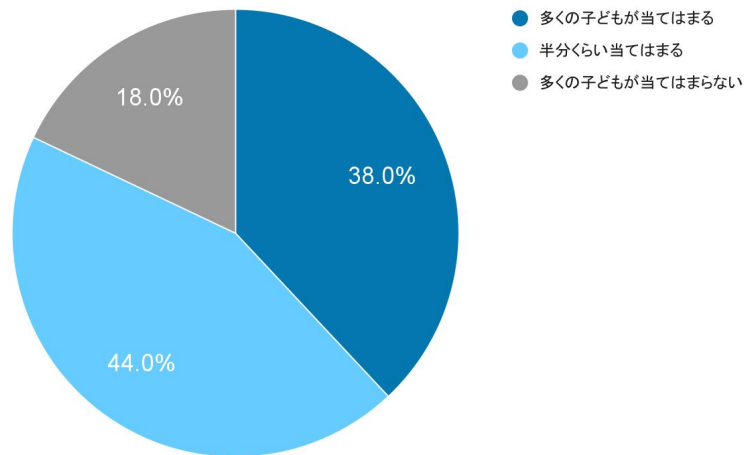
家庭では思春期にあたる中高生の時期に一時的に当てはまるが41%と高くなる傾向があるが、施設では年代の変化による明確な差は見られなかった。

# 暴言やネガティブな言葉を吐く

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと

家庭の場合は、当てはまるが、28%なのに対して、施設の方は、82%\*と高い傾向にある。

\*多くの子どもが当てはまる＋半分くらい当てはまるの合計値

自由記述欄から見てきたこと

家庭は「うるさい」「面倒」など悪態をついていると思われるワードが多いのに対して、施設では「殺す」が11回、「死ぬ」、「死ねる」が74回と突出して使われ、自尊も他尊もない(特に自尊が低い)ことがうかがえる。

# 暴言やネガティブな言葉を吐く

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	70%	10%	20%
小学校低学年	50%	36%	14%
小学校高学年	43%	24%	33%
中高生	29%	29%	41%
18歳以上	50%	50%	0%
全体	45%	27%	28%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

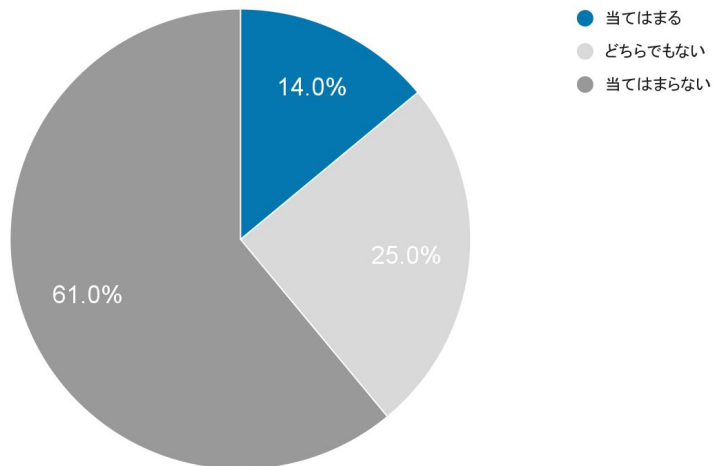
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	33%	33%	33%	67%
就学前, 小学生	17%	50%	33%	83%
就学前, 小学生, 中高生	18%	46%	36%	82%
小学生	0%	75%	25%	100%
小学生, 中高生	18%	35%	46%	82%
中高生	16%	63%	21%	84%
全体	18%	44%	38%	82%

比較から見えてきた差分について

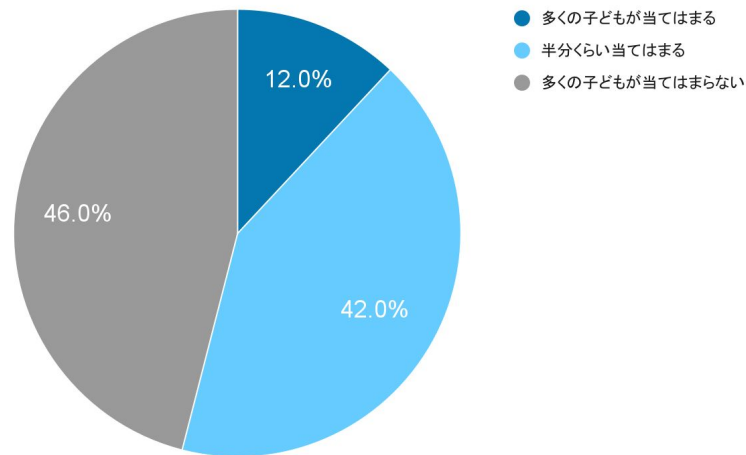
家庭では、小学校高学年～中高生(思春期の時期)にかけて増えていく(中高生41%)が、18歳になるとおさまるのに対し、施設の場合は、どの年代も当てはまり(67%～100%)、年代による大きな変化が見られない。

# みんなの前で発表する(話す)ことができない

## 一般向けアンケート



## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	家庭の場合は、当てはまるが、14%なのに対して、施設の方は、54%*と半数以上が当てはまると回答している。 *多くの子どもが当てはまる+半分くらい当てはまるの合計値
自由記述欄から見てきたこと	「恥ずかしい(両者)」「避ける(家庭)」「緊張(施設)」「苦手(施設)」など類似した言葉が使われており、家庭と施設で、ワードの大きな違いは見受けられない。



# みんなの前で発表する(話す)ことができない

## 一般向けアンケート

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
就学前	80%	0%	20%
小学校低学年	57%	36%	7%
小学校高学年	67%	24%	10%
中高生	41%	35%	24%
18歳以上	100%	0%	0%
全体	61%	25%	14%

※50%以上を超えている箇所を色付け

## 施設向けアンケート

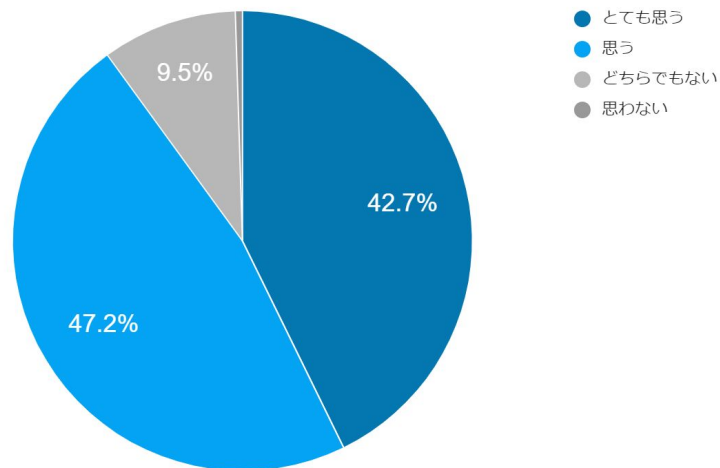
	多くの子どもが当てはまらない	(A)半分くらい当てはまる	(B)多くの子どもが当てはまる	(A)+(B)の合計
就学前	100%	0%	0%	0%
就学前, 小学生	83%	17%	0%	17%
就学前, 小学生, 中高生	45%	41%	15%	55%
小学生	25%	75%	0%	75%
小学生, 中高生	42%	48%	11%	58%
中高生	53%	32%	16%	47%
全体	46%	42%	12%	54%

比較から見えてきた差分について

家庭では、思春期の時期に一時的に当てはまらないの値が下がる(41%)が、全体的に61%と当てはまらない傾向がある。それに対して、施設側では回答にバラつきが見られ、子どもによって状況が異なると考えられる。

# コミュニケーション力の不足が、退所後の自立に影響を与えていると思いますか？

## 施設向けアンケート



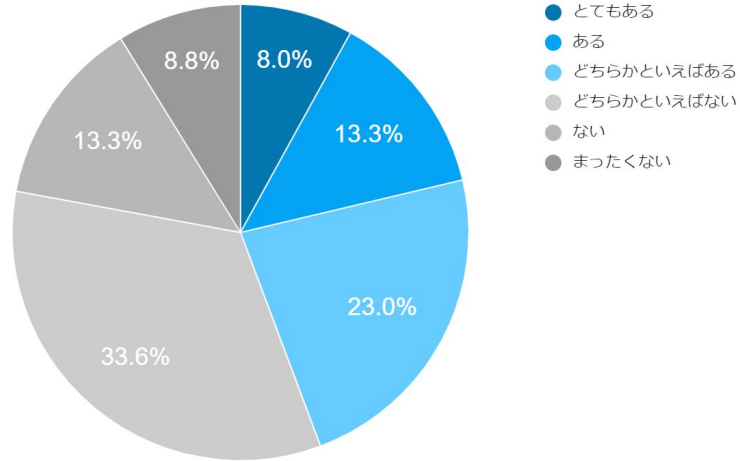
自由記述欄から見えてきたこと

出てきたワード群から、「話し合えない」「誤解を招く」が「人間関係」「社会適応」問題に繋がり、「孤立」「抱え込む」状態になり、「生活に支障をきたす」「困難を抱える」結果となることがうかがえる。

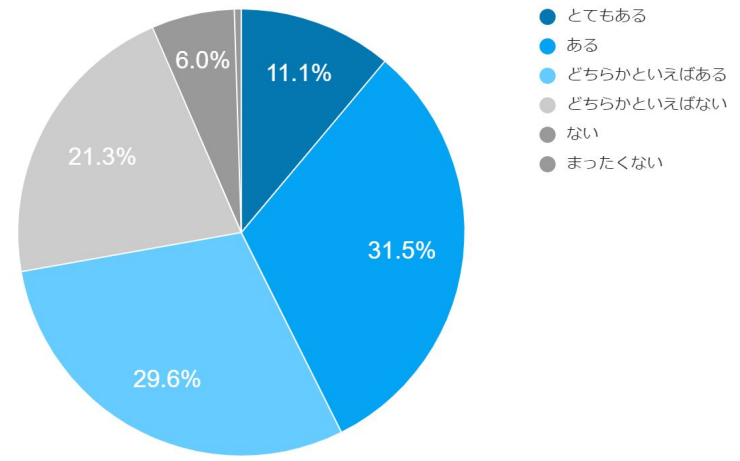
# 大人に関するアンケート 結果

# 子どもとの会話について、悩みがありますか？

## 一般向けアンケート



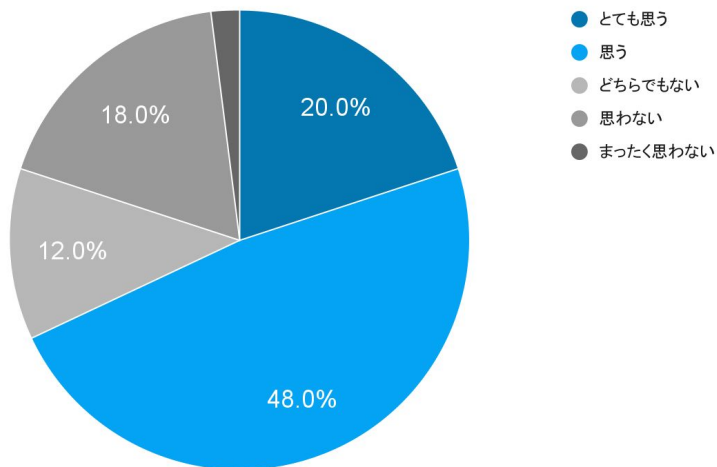
## 施設向けアンケート



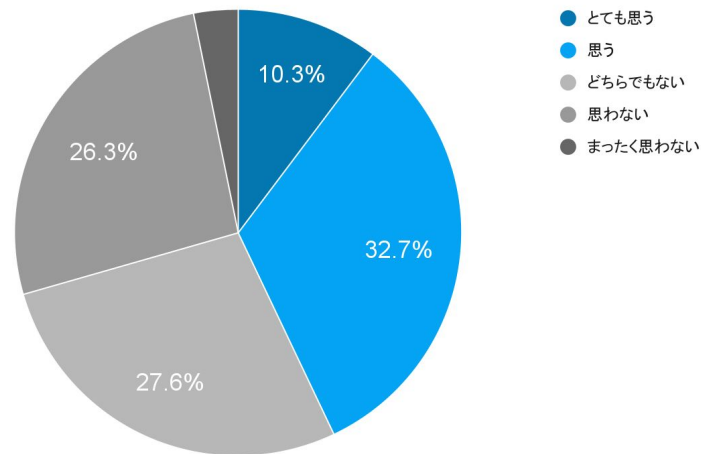
円グラフから見えてきたこと	子どもとの会話については施設の方が約72%で一般の約44%よりも約1.5倍悩んでいる
年代別から見えてきたこと	一般家庭では特に中高生で31%、小学校低学年で28%と子どもとの会話に悩みを抱えている。
施設の養育歴から見えてきたこと	施設の養育歴5年未満の職員では約82%の人が子どもとの会話に悩んでいる。

# 日常のやることに追われており、子どもの話を聞く気持ち的な余裕がない

## 一般向けアンケート



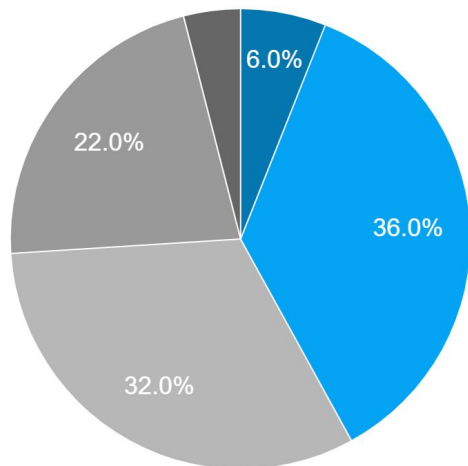
## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	一般家庭の親の68%が追われており気持ちに余裕がないのに対して、養護施設の職員43%と、気持ちの余裕を持っている割合が高い。
年代別から見てきたこと	一般家庭の親は「とても思う」の約73%が3歳～8歳が占めており仕事と子育ての両立が大変な時期と言える。
施設の養育歴から見てきたこと	施設の養育歴9年以下の職員では50%以上の人が気持ちに余裕がないと回答している。

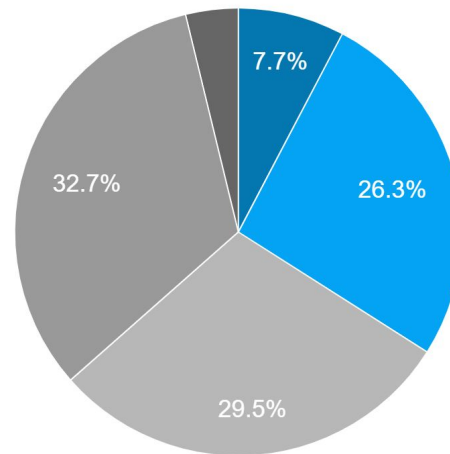
# 子ども同士のトラブルが起きたとき、どのような言葉や態度を取ればいいのかわからない

## 一般向けアンケート



- とても思う
- 思う
- どちらでもない
- 思わない
- まったく思わない

## 施設向けアンケート

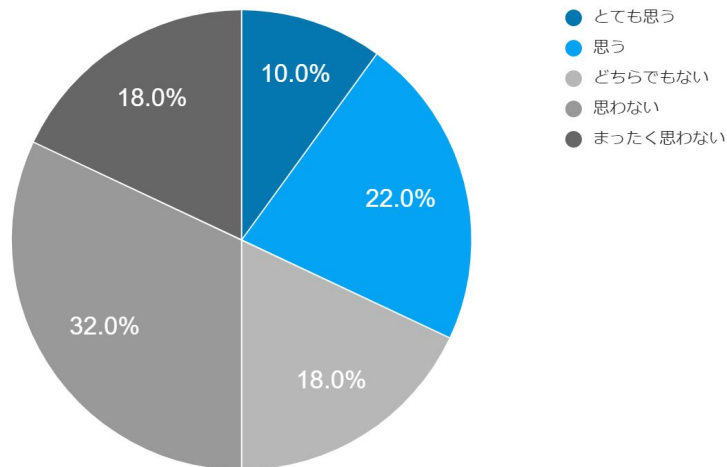


- とても思う
- 思う
- どちらでもない
- 思わない
- まったく思わない

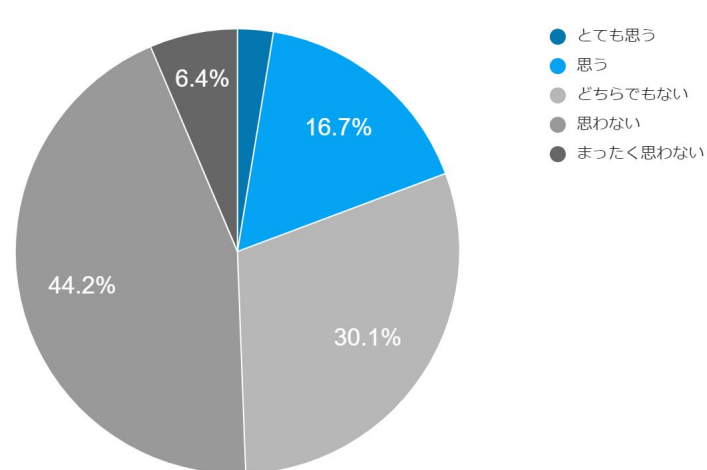
円グラフから見てきたこと	子ども同士のトラブル時の対応は一般家庭の親が42%と、養護施設の職員より34%と家庭の方が若干「わからない状態」である。
年代別から見てきたこと	一般の小学生を持つ親の75%は「思わない」と回答しており、施設の小学生では約28%が「思わない」と回答している
施設の養育歴から見てきたこと	施設の養育歴3年未満の職員は約64%の人がわからないと回答している。

# 子どもが学校や友だちのことを話してくれず、どのように聞けば話してもらえるかもわからない

## 一般向けアンケート



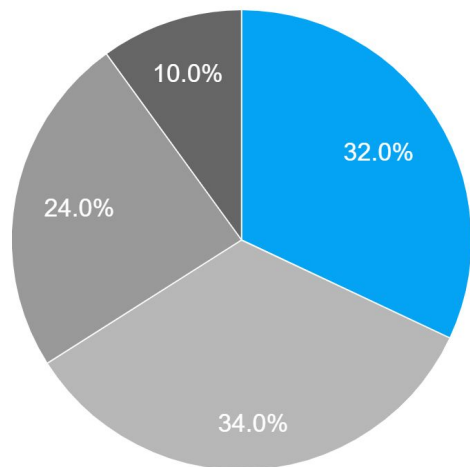
## 施設向けアンケート



円グラフから見てきたこと	学校や友達のことは、ある程度一般でも施設でも話してもらえている。
年代別から見てきたこと	一般の小学校低学年を持つ親の約64%は「思わない」と回答しており、施設でも小学生では約41%が「思わない」と回答している
施設の養育歴から見てきたこと	養育歴による変化はなかった。

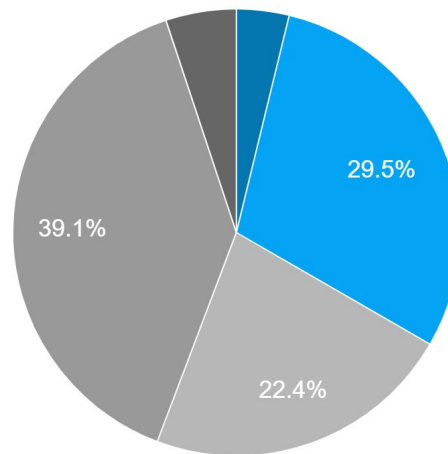
# 子どもが話してくれている時、リアクションや聞き方に、不安を感じるときがある

## 一般向けアンケート



- 思う
- どちらでもない
- 思わない
- まったく思わない

## 施設向けアンケート



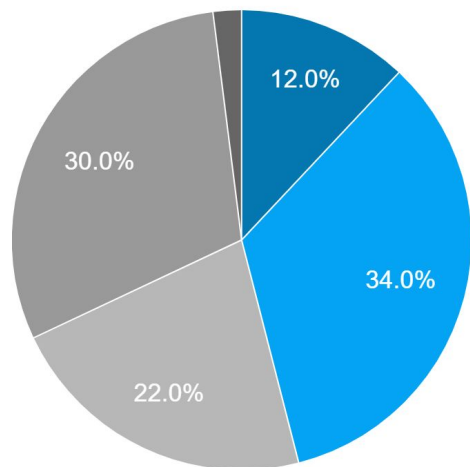
- とても思う
- 思う
- どちらでもない
- 思わない
- まったく思わない

円グラフから見てきたこと	一般家庭の親と養護施設の職員ではほとんど差がなかった。
年代別から見てきたこと	一般の小学校低学年を持つ親の約57%は「思わない」と回答しており、施設でも小学生では約36%が「思わない」と回答している
施設の養育歴から見てきたこと	養育歴による変化はなかった。



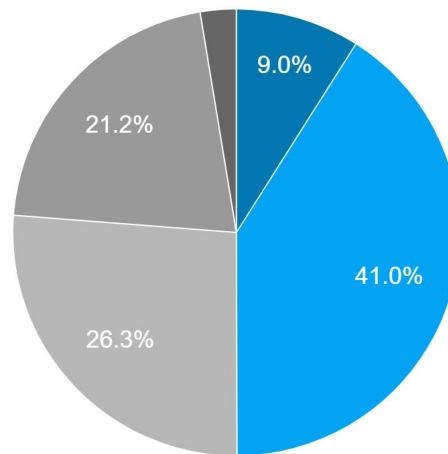
# どのように子どもに声がけしたら良いのか、わからなくなる時がある

## 一般向けアンケート



- とても思う
- 思う
- どちらでもない
- 思わない
- まったく思わない

## 施設向けアンケート

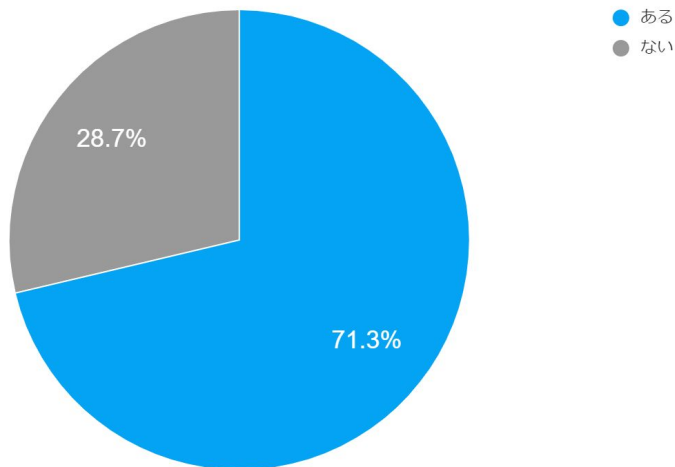


- とても思う
- 思う
- どちらでもない
- 思わない
- まったく思わない

円グラフから見てきたこと	一般家庭の親と養護施設の職員ではほとんど差がなかった。
年代別から見てきたこと	「とても思う・思う」が中高生で約71%であり、声かけが難しい年代と言える
施設の養育歴から見てきたこと	特に施設の3年未満の職員は約81%がわからないと回答している。

一緒に働く、同僚や上司、部下に対してコミュニケーションの課題を感じることはありますか？

## 施設向けアンケート

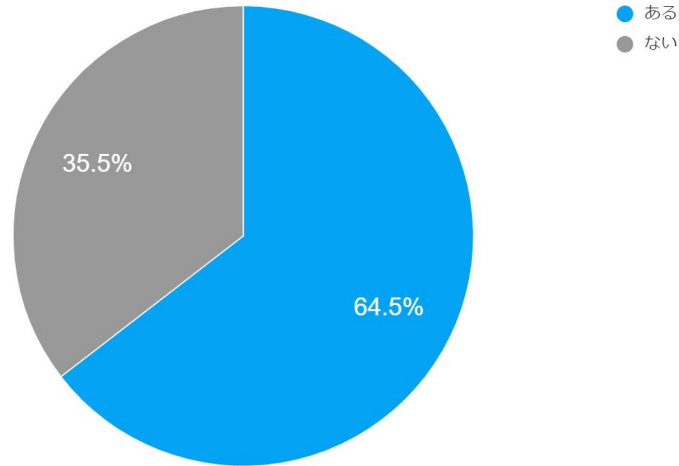


施設の養育歴から見てきたこと

施設の1～5年目の職員約48%、  
施設の6～9年目の職員78%、  
施設の10年目以上の職員では83%と  
職歴が長いほど、一緒に働く、同僚や上司、部下に対してコミュニケーションの課題を感じている。

一緒に働く、同僚や上司、部下の「子どもへの対応」で課題に感じていることはありますか？

## 施設向けアンケート

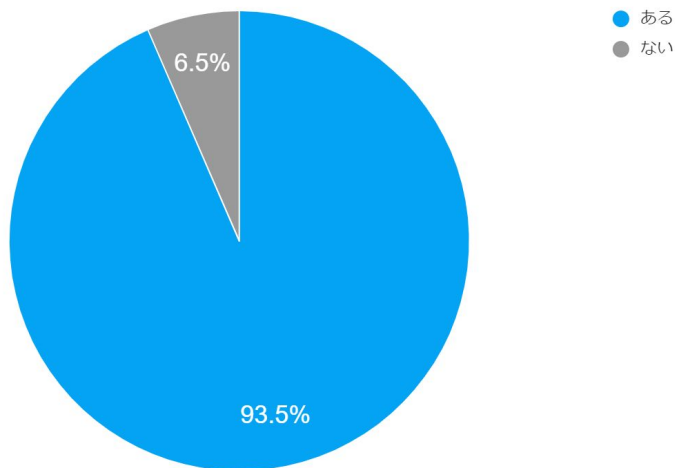


施設の養育歴から見えてきたこと

施設の1～5年目の職員約27%、  
施設の6～9年目の職員約70%、  
施設の10年目以上の職員では約84%と  
職歴が長いほど一緒に働く、同僚や上司、部下の「子どもへの対応」の課題を感じている。

職員同士のコミュニケーションの内容が不十分な事が、離職の原因の一つになると思いますか？

## 施設向けアンケート



施設の養育歴から見えてきたこと

施設のほぼ全世代約94%の方がコミュニケーション不足が離職の一因と感じている。